

## 市民の森・自然歩道におけるヒグマ出没情報

市民の森・自然歩道では毎年ヒグマが出没しています。お出かけの際には、新聞や市環境局みどりの推進部「みどりのページ」などでヒグマ出没情報を確認しましょう。またヒグマが頻繁に出没している場合は散策を控えましょう。

【問い合わせ先】環境局みどりの管理課Ⅷ(21)2536  
ホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/>

[ryokukata/top/higuma/index.html](http://ryokukata/top/higuma/index.html)

## クマとの事故をなくすには…

札幌市を含め北海道の多くの地域は、ヒグマの生息地です。登山や山菜採りなど山に入る際には十分な注意が必要です。

### ヒグマに出合わないようにすることです。

- ヒグマの出没情報に気を付けましょう。  
山に入る前には新聞やテレビあるいは地元の人に聞くなどヒグマの出没情報に気を付けましょう。また西区や札幌市のホームページでもヒグマ出没情報をみることができます。
- 音を出しながら歩きましょう。  
山に単独で入らない。しゃべりながら歩く。鈴を付ける。手をたたくなどで、人がいることをクマに知らせましょう。
- 薄暗い時には行動しないようにしましょう。
- クマのフンや足跡、食べた跡を見つけたらすぐに引き返しましょう。

### それでもヒグマに出合ってしまったら…

- 遠くにクマを見つけたら  
落ち着いて状況を判断してください。クマがこちらに気付いていないなら、その場を静かに立ち去りましょう。
- クマがこちらに気付いていたら  
クマの移動する方向を見定めながら静かに立ち去りましょう。慌てることは事故につながります。まず落ち着くことです。普通にしていれば、ほとんどのクマは立ち去るはずですが。
- それでも近づいてきたら  
クマの目をにらみ続けてください。そしてクマの動きを見ながらゆっくりと後退してください。このときリュックや服などの持ち物をそっと置くとクマの気を引いて時間をかせげます。
- 大声、走って逃げる、石投げは自殺行為  
クマを刺激しないことです。木に登ってやり過ごした例もあります。まず、落ち着いて状況を判断することです。
- 子グマの後ろに必ず親グマあり！  
子グマをみつけたら絶対近づかないことです。速やかに立ち去ってください。
- もしも襲いかかれたら  
北米では、首の後ろを手で覆い、地面に伏して、<sup>けいぶ</sup>頸部、後頭部への致命傷を防ぐ方法を勧めています。道内の死亡事故でもこの部位が致命傷となっている事例がみられます。また、クマ撃退スプレーが、ある程度有効であることも知られています。

## ヒグマについての勉強会を開催しました。

今年2月に昭和会館（西野6-3）で地域住民と行政職員が参加して「ヒグマを知ろう！」と題した勉強会を開催しました。この勉強会は、西区役所の主催で行われたもので、地域住民の方など約60人が参加しました。



この勉強会は、昨年西野地区で例年以上にヒグマの出没が頻発した状況を踏まえ、ヒグマの生態やヒグマとの共存の道を探るために実施されました。

勉強会は、前半に講師の北海道環境科学研究センターの野生動物科長・<sup>まのつとむ</sup>間野 勉氏の講演、後半は地域住民との討論会という流れで進められました。前半の講演では間野氏が北海道に生息するヒグマの特徴や、その生息数、生息範囲、人間の生活圏とヒグマの生息域が非常に近接している場合に人間が注意すべきことなどをデータを基に説明しました。「人に危害を加えるヒグマの多くは、人から食物を得られることを学習した個体である」ことや、「仮に今出没している個体が駆除されても、人間の側がヒグマに正しく対応しないと同じことが繰り返される可能性が高い」ことなどが紹介されました。

後半の討論会では、ヒグマが出没する地域での課題などが話し合われ、参加者に「山に入るときは絶対に生ごみを置いてこないなど、人間が気を付ければ事故は防げるはず」と呼び掛けました。